はじめまして。中西葉奈と申します。
松江北高校には 2013 年に入学し、1 年間の留学の後 2017 年の春に卒業しました。現在は秋田県に所在する国際教養大学の 4 年生です。いよいよ来年から社会人の仲間入りということで、来年度より東京で働く予定となっておりますので、東京双松会の皆様と直接お会いできる機会がありますことを楽しみにしております。大学卒業前に学生時代を振り返る良い機会をいただきました。せっかくなので、高校での留学の経験や大学でどのようなことを考え、活動していたのかを少しお話しさせていただきたいと思います。

高校入学してから学校の勉強についていけず休みがちだったのですが、自分の価値を偏差値以外でも測ってもらえる場所はないのかと考えていた時にアメリカの高校を舞台にした映画に出会いました。一人ひとりの個性が活かされている様子を見て、海外には自分でも輝ける場所があるかもしれないと思ったことを覚えています。さらに同時期に出会った、北高出身で当時 Google で働かれていた先輩に言われた、「Google の検索エンジンで日本語と英語で検索するのでは得られる情報量と見る世界の広さが全く違う」という言葉で高校１年次にアメリカ留学を決意し、高校２年の夏に留学のための試験に合格しました。派遣先はテキサス州クラークスビル。地名を聞いてもよくわからないけれど、映画で見たような最先端の教育環境で学べる、英語が話せるようになると期待に胸を膨らませて飛行機に飛び乗ったのは昨日のことのようです。

派遣先の地域や学校は私が想像していた「アメリカ」とは全く違いました。テキサス州の中でもとても貧しく、主要な産業もないために、ほとんどの住民が生活保護で日々暮らしている地域です。住民のほとんどは黒人とメキシコから移住したヒスパニック系なので、スペイン語が飛び交い、なまりの強い英語は全く聞き取れない。学校に行っても授業崩壊。英語の話せない私がなぜかクラスで成績が一番になる不思議な現象が起きたほどです。

そんな留学先で自分のあたり前や常識が尽く覆される経験をしました。学校に行って自分の納得いく職につくのが当たり前な私と、学校に行って仕事につくよりも生活保護に頼る方が安定した暮らしをするのが当たり前な同級生。それまで正解は一つだと教えられてきた私にとっては衝撃的でした。今となっては当たり前な話ですが私にとっての正解と彼らにとっての正解は違って、どれも正しいことを学んでから、ひとつの物事に対して様々な価値観や意見を知り、検討した上で自分の意見を持てる人間になりたいとなりたいと思うようになりました。

留学は自分なりに成長のできた 1 年間だったものの、それでも同時期にアメリカ各地に派遣された日本人の交換留学生が SNS に載せる煌びやかな写真を見て、悔しくなり、留学を応援してくれた両親や北高の先生に申し訳なさもありました。大学ではこの 1 年間を取り返すために、誰よりも濃い 4 年間を過ごすと決め、ひたすら勉強に打ち込める全寮制で、全て英語で授業が行われる、アメリカの大学のカリキュラムを採用した国際教養大学に進学をしました。

大学では一つの社会問題に対して複数の国や地域の視点から考える、国際関係学を極めようと、ワシントン DC の大学に留学したり、日本とアメリカの政府機関で授業の合間に働いたり。学問外では興味のあるものは

全てやってみようと、TEDx の立ち上げ、40 か国地域から集まる学生寮の寮長、英語キャンプ運営、国際学生会議の運営など様々なことを経験させていただきました。大学生活に悔いはありません。駆け抜けられたと思います。

きっと高校留学の 1 年間での様々な気づきや思い、悔しさがあったからこそ今の自分は挑戦することに貪欲になれていて、自分の意見や意思を持って行動できるようになったと思っています。そんなきっかけを与えてくれた北高の先輩やそれ全力で支えてくださった当時の北高の先生方には感謝しています。私も来年から社会人。近い将来そんな北高に恩返しのできる人間になれるよう、精進してまいります。

2020 年 11 月 27 日掲載